



地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター
臨床検査科/病理診断科



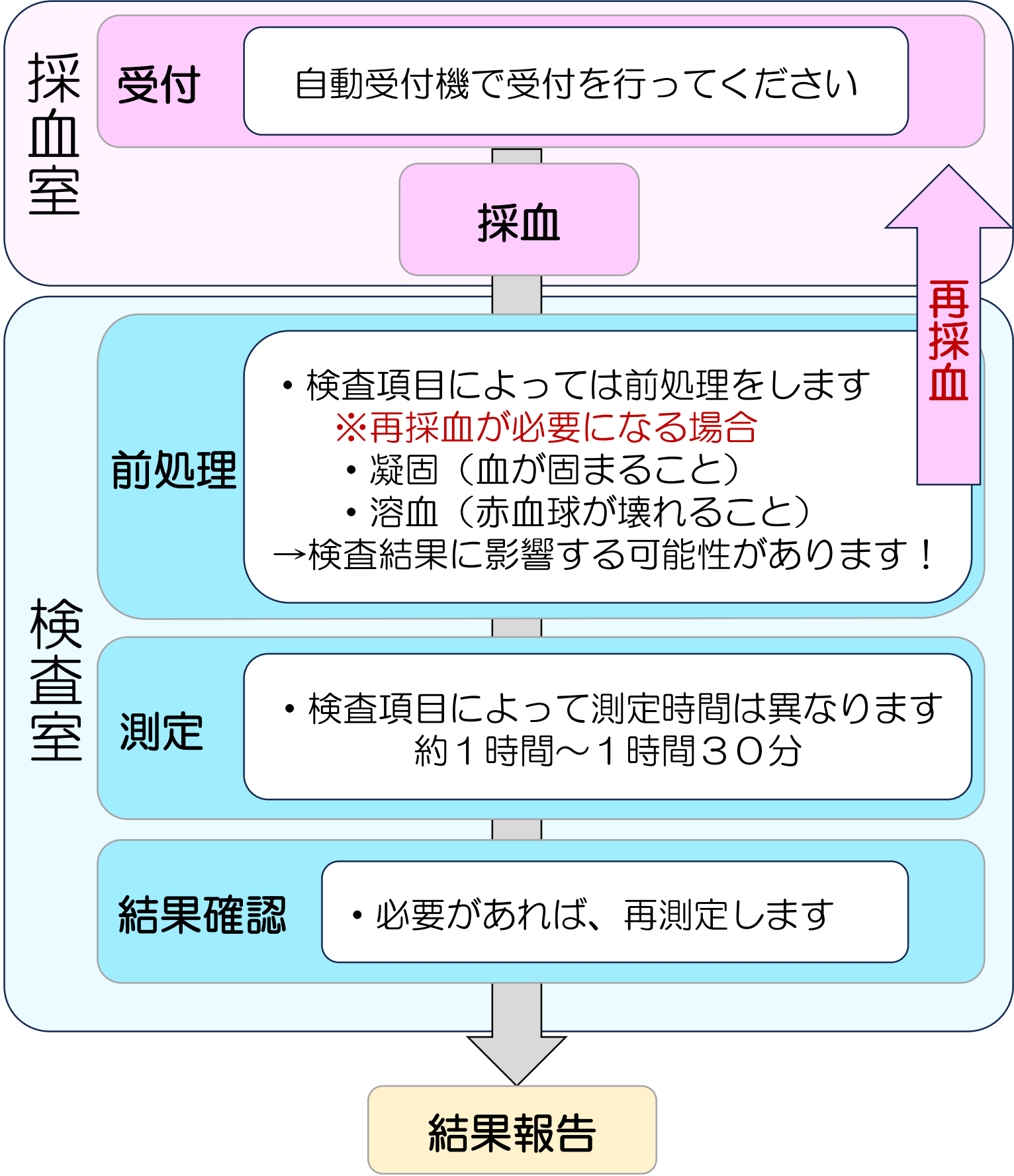
なぜ検査は必要？



- 血や尿、痰、細胞を調べることで、体の状態を知ることができます。
- 肺活量、心電図、超音波、聴力の検査を行うことで、体の機能を調べることができます。
- 担当医が診療のために必要だと判断したときに、検査を行っています。

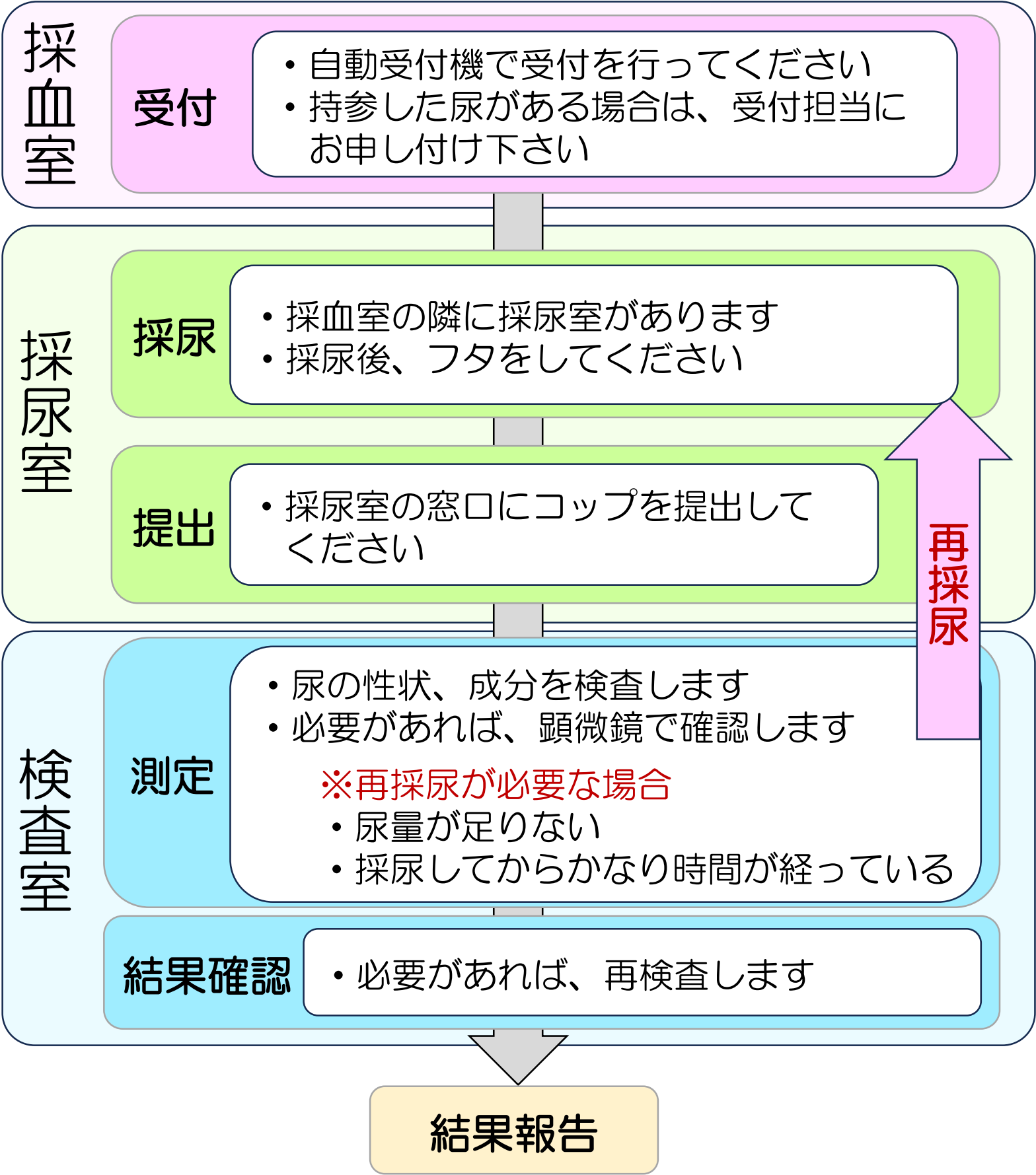


採血の流れ



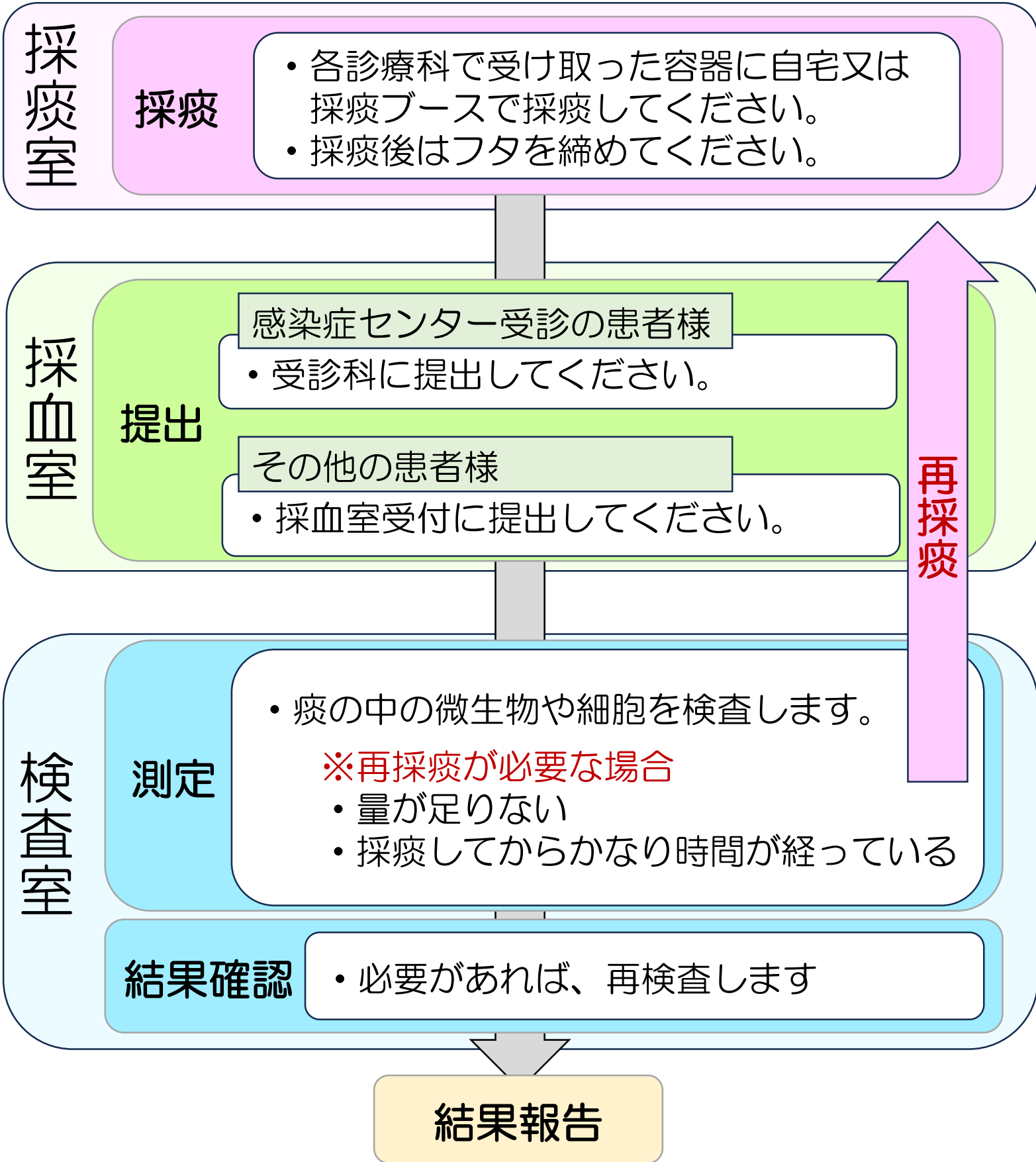
※採血室に来られた方は検査（採血）に同意されたとします
採血に同意できない場合：不同意申請書にご記名ください。検査せず医師に連絡します

採尿の流れ



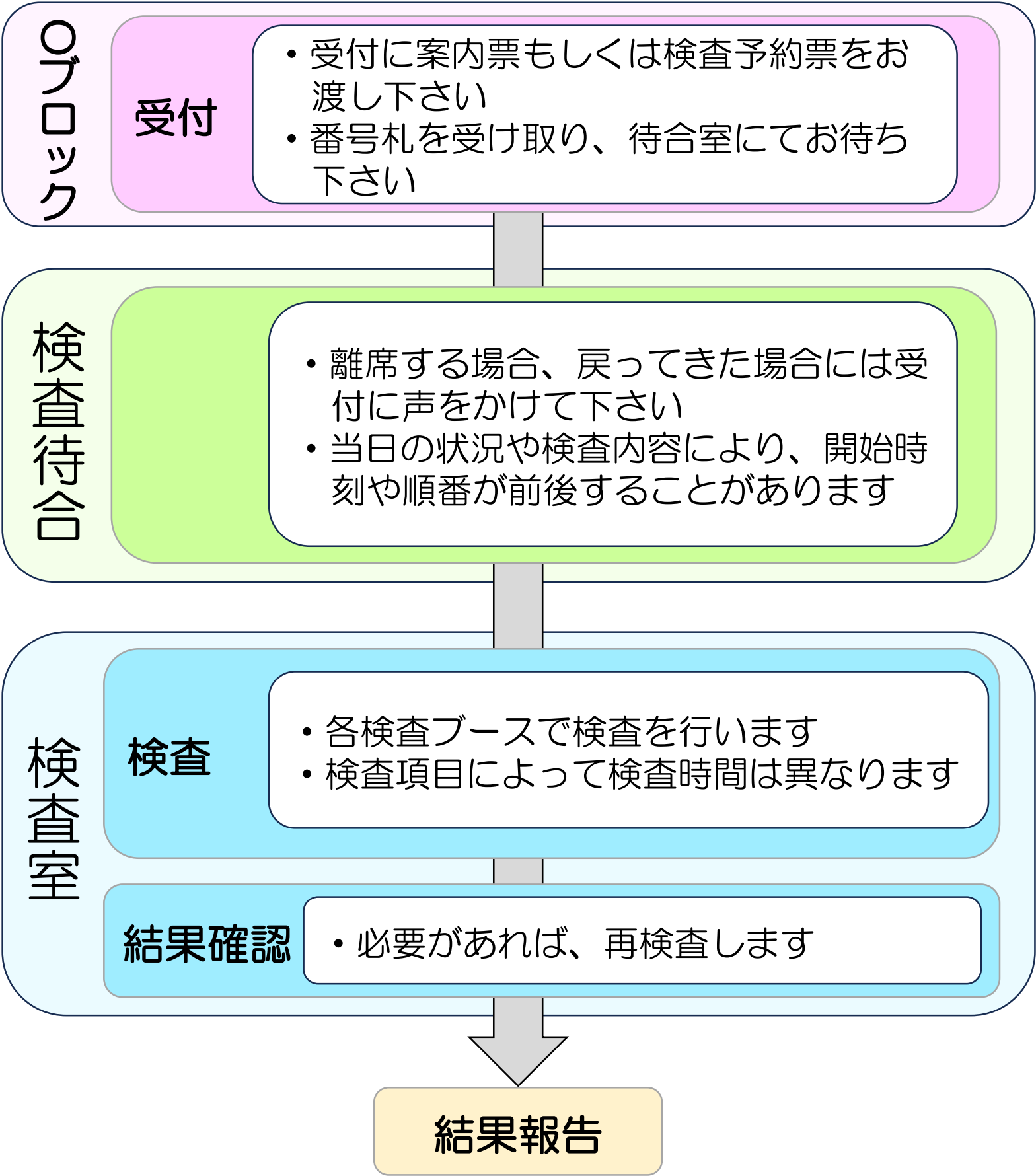
※採尿室に来られた方は検査（採尿）に同意されたとします
採尿に同意できない場合：不同意申請書にご記名ください。検査せず医師に連絡します

採痰の流れ



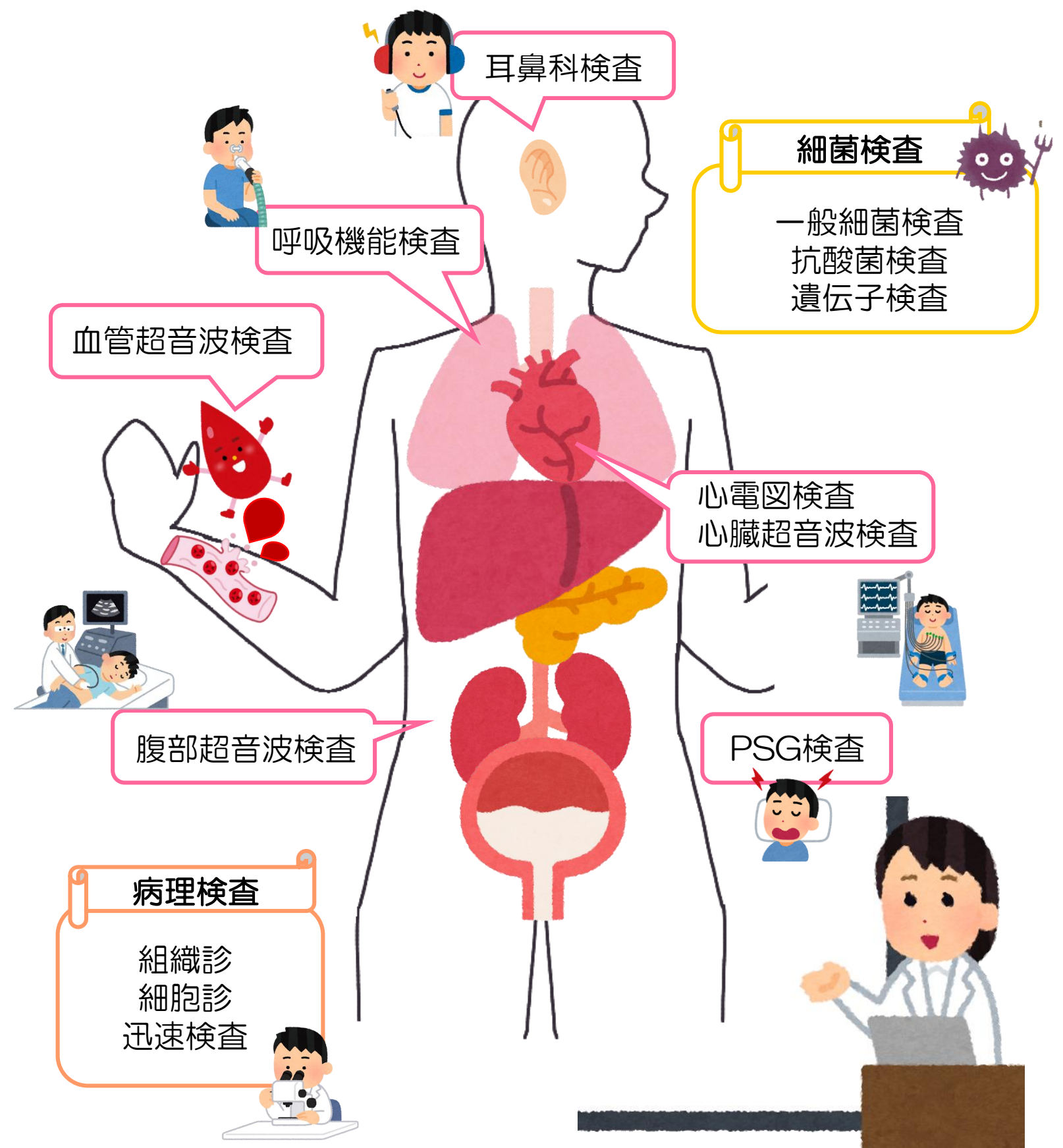
※採血室に検体（痰）を提出した時点で検査に同意されたとします
同意しない場合：不同意申請書にご記名ください。検査せず医師に報告します

生理機能検査の流れ

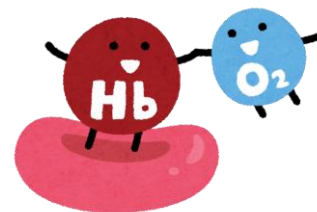


※検査室にいられた方は検査に同意されたとします
※女性技師希望の場合は受付時にお気軽にお申し付け下さい

主な検査項目 ～その他～



検体検査①

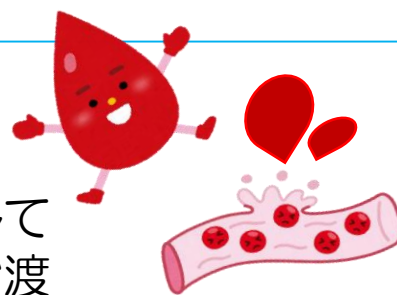


生化学・免疫関連検査

- 血清または血漿、尿、体液中から栄養状態や肝機能、腎機能などを調べるための電解質、無機物質、蛋白質、酵素、非蛋白性窒素成分、腫瘍マーカー、ホルモン、感染症などを検査しています。
- アトピー性皮膚炎の病変のモニタリングに有用なTARCの検査を行っています。
- アレルギーの原因を突き止めるため、多数のアレルゲン項目を測定しています。
- 肺胞洗浄液からアスベスト小体の検出や肺内の病気を調べる検査を実施しています。

血液検査

- 血液中の血球成分を測定し、貧血や白血病などの病気を調べています。分析装置で判定できない場合は、顕微鏡を用いて精査しています。
- 止血検査では血液の固まりやすさを測定します。手術前、出血時における止血異常の評価や、抗凝固薬の服薬量の調節のために検査を行います。



検査項目（生化学・血液）の詳細につきましては当院の総合案内で『検査項目一覧表』をお渡ししています。

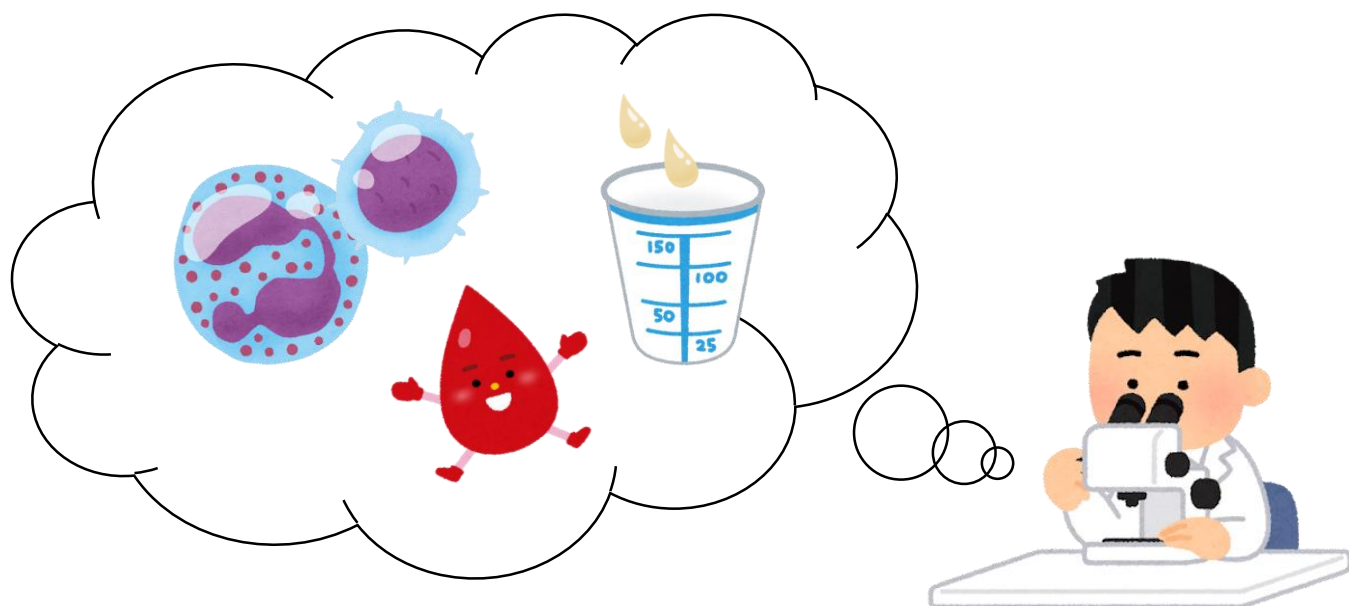
検体検査②

一般検査

- 尿検査では尿中に含まれる糖や蛋白質、細胞などを機械や顕微鏡で検査しています。
- 鼻汁や喀痰、便中に出ている好酸球の検査や胸水、髄液などの穿刺液検査を実施しています。

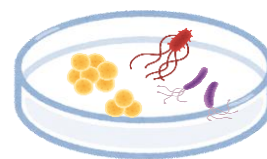
輸血検査

適切な血液を輸血できるよう、ABO・RhD血液型検査、不規則抗体スクリーニング検査、交差適合試験を輸血前検査として行っています。院内で採取する貯血式自己血や血液センターからの輸血用血液製剤の保管管理を行っており、安心、安全に輸血できるよう徹底しています。





細菌検査



一般細菌検査

細菌検査室では、患者様から提出された検査材料（痰・尿など）から感染症の原因となる病原微生物を特定し、どのような抗菌薬が有効であるかを検査しています。

【塗抹検査】

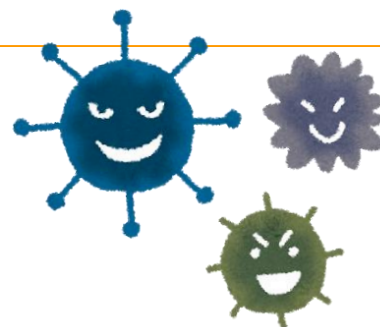
検査材料から標本を作製・染色した後に、顕微鏡で菌の形や色を観察します。どのような菌がいるか推定することができます。

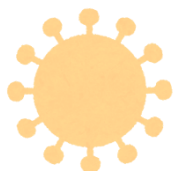
【培養・同定検査】

菌の発育に必要な栄養素を含んだ培地に、検査材料中に含まれている菌を発育させ、病原微生物の有無を調べます。また、特殊な培地を用いることで、MRSAや薬剤耐性菌などを迅速かつ効率的に検出することができます。

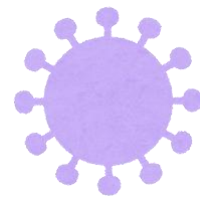
【薬剤感受性検査】

検査材料中の病原微生物にどのような抗菌薬が有効であるかを検査します。





細菌検査



抗酸菌検査

検査材料に結核菌などの抗酸菌がないかを検査します。複数回検査することで、抗酸菌の検出率を上げることができます。

【塗抹検査】

抗酸菌染色を行うことにより、検査材料中の結核菌などの抗酸菌の有無が迅速にわかります。

【培養・同定検査】

抗酸菌の発育に必要な栄養素を含んだ特殊な培地を用いて、検査材料中に含まれている抗酸菌を発育させ、菌種を調べます。

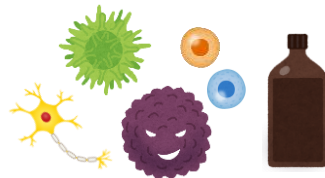
【薬剤感受性試験】

検査材料中の抗酸菌にどのような薬が有効であるかを検査します。

遺伝子検査

PCR法を用いて、ウイルスや細菌の遺伝子を検出することで、検査材料中（鼻腔ぬぐい液など）に存在する病原微生物を見つけます。培養では発育しないウイルスの検出も可能で、細菌・ウイルスを同時に検出できる遺伝子検査もあります。抗酸菌遺伝子検査は塗抹陽性検体における結核菌の鑑別に有用です。

病理検査



組織診

患者様の体のあらゆる部位から採取した組織より標本を作り、病理診断を専門とする医師である「病理医」が顕微鏡で観察し病理診断を行います。臨床医は病理診断を元に治療を行います。臨床医とのカンファレンスも積極的に行っています。

- ・生検検体

肺、胃、大腸などの病変の一部を内視鏡検査の際にとったり、皮膚のできものをメスでとったもの、乳腺のしこりを針でとったものなどから標本を作り検査します。

- ・手術検体

手術で摘出された臓器から標本を作り、がんの広がりや転移の有無などを検査します。



細胞診

喀痰や尿、乳腺のしこりなどから細胞をとり、顕微鏡で観察し細胞検査士が、がんがないか検査をします。

気管支鏡検査の際には、細胞検査士が立ち会い、その場で迅速診断を行っています。1回の検査で確実に検体をとることで、患者様の負担を軽減でき、かつ検査効率が高めることができます。



迅速検査（組織診、細胞診）

手術中にがんが取り切れているのか、転移はないか、などの検査を行います。



生理機能検査①



呼吸機能検査

- 肺がどのくらいの空気を取り込み、吐き出す力があるのかを調べる検査です。
- 慢性閉塞性肺疾患や気管支喘息、間質性肺炎の診断や術前のスクリーニングに用います。
- 努力次第で結果に影響が出るため、患者様のご協力が必要な検査です。

心電図検査

- 心臓が発する微弱な電気信号を波形として記録し、心臓の働きを調べる検査です。
- 不整脈や虚血性心疾患などの心疾患の診断、術前のスクリーニングに用います。

耳鼻科検査

- 難聴の程度や原因を調べる検査です。
- その他、めまいや味覚・嗅覚検査も行っています。



聴力検査

- 高い音から低い音までいろいろな音を聞き、どのくらい小さな音が聞こえるか調べます。

ティンパノメトリー検査

- 耳に空気をいれ、圧の変化を測定し、鼓膜の張り具合を調べる検査です。



生理機能検査②



超音波検査

- 人には聞こえない高周波の音（超音波）を用いて、体の内部構造や動きを画像として観察する検査です。

心臓超音波検査

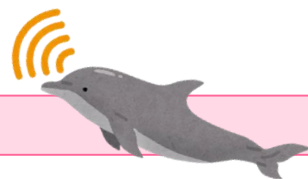
- 心臓の形や大きさ、心筋の壁の厚さ、心臓弁の動きや形、異常血流の有無を調べます。
- 心不全の状態や心肥大、弁膜症などがわかります。

血管超音波検査

- 血管内の血流の流れや動脈硬化・血栓の有無などを調べます。

体表超音波検査

- 体の表面（乳腺や甲状腺、皮膚など）に腫瘍がないか調べます。
- 腫瘍の大きさや性状を調べ、乳癌や甲状腺疾患の診断に用います。
- 女性技師が行います。



腹部超音波検査

- お腹にある臓器の大きさや炎症の有無、腫瘍・結石の有無などを調べます。

PSG

- 睡眠時の呼吸状態や脳波、いびきなどを調べる検査です。
- 睡眠障害の原因と程度を調べます。



ご意見・お問い合わせについて

- ご意見、苦情等については、院内に設置されているご意見箱をご利用ください。
- 臨床検査科の担当者および責任者が内容を確認し、対応策を検討したうえで、病院より回答いたします。
- 検査終了後の血液・尿等と検査結果を教育・研究・精度管理に使用させていただく場合があります。同意できない場合は、採血室受付までお申し出ください。
- その他問い合わせは、2階採血室受付でお伺いいたします。
対応時間は平日8時45分から16時00分です。

発行日：2025年2月1日

